巻頭言

紀要は大学の顔です。分野ごとの学術雑誌とは異なり、各年度の大学の活動を取りまとめ、社会の皆様にお知らせするとともに、大学の教職員自身が活動を振り返って、次につなげるためのアイデアを得るきっかけとなるものです。純粋な学術論文のように細かく厳密なレビューをするというよりは、ありのままの事実を記述し、それに対する解釈を自由に述べるという場であることが多いと思います。それを通じて、大学の素顔が読者の方々にも伝わるのではないでしょうか。

本学では以前から佐岡地区をフィールドにお借りして、地域の生活の基本となる様々なデータを科学的に測定し、その意味や将来の可能性を探ってきました。持続可能性が社会の最重要課題となっている今、このような伝統を踏まえた生活様式に対する、その学術的・客観的な意味づけは、従来にはなかった視点を与えるものとなるはずです。いわゆる里山の科学は、文明のあり方に対して新たな方向性を提起することになるかもしれません。この紀要が、そうした新たな動きの芽生えをリアルタイムに生々しくお伝えできれば、一つの重要な役割を果たしたことになります。

加えて、この巻には、本学教員の専門的研究および諸活動の報告がなされています。テーマは様々であり、新たな研究的発見から、教育や研究の周辺に関わる報告、そして国際的活動記録など、いずれも日常生活や、学術論文集にはない、紀要という場でしか得られない情報が含まれています。

特に本学では、国際化に力を入れており、学生の卒業後に、いつ海外勤務になっても臆することがないように、海外の生活や文化に接し、慣れるように、学生を海外に派遣したり、留学させたり、海外の学生を本学に招聘して本学の学生と交流させたりと、様々なプログラムを展開しています。このような、本学の特徴的な活動の一端も、この紀要でご紹介しています。

様々なテーマをさまざまな角度から見た、それぞれに新鮮な記事をお楽しみいただければ幸いです。

学長　磯部雅彦